

》商工会議所活用レシピ

有田といえは陶器市！
100年超の伝統は商工会議所あってこそ



株式会社香蘭社
代表取締役 副社長
深川 祐次さん

当社は、今からおよそ300年前、肥前有田で初代深川栄左エ門が磁器の製造を始めたことを起源とします。明治維新を境に、佐賀鍋島藩の一切の保護を得られなくなり、危機にひんします。

その際、再興のために八代目が中心となって、抜きん出た陶工、絵付師、商人たちを一つにまとめた欧米流のカンパニー（結社）が「香蘭社」です。

当社をはじめ、まちの主産業は磁器製造。商工会議所が音頭を取り、それらを取りまとめ行う「有田陶器市」は、ことしで107回目。黄金週間のビッグイベントとして全国的に名をはせています。

この地は行商が中心で、小売りといえは、昔は、子どもたちが小遣い稼ぎに廉価品を店の軒先

でときどき売っていた程度。それが大正4年、深川六助らの発案により、5月に開催する陶磁器品評会に併せて、まち中で二斉に販売することになりました。

品評会に出展される一級品は、いわゆる芸術作品。一般の方には目の保養になるかもしれないが、普段使いには不向きです。ですから、有田焼としての風格を保ちつつ、日用品としての機能性や値ごろ感のあるものを、品評会に来た人々に販売したのです。

毎年5月、個人のお客様が遠方からもやって来て直接買ってくださるようになったことは、本当に大きな変化となりました。期間中100万人が集い、まち全体にぎわうことはもちろん、消費者の声が直接届き、商品開発などにも大変参考になっています。

万全の受け入れ体制を築くため、事務局はもちろん商工会議所。官民のバランスが取れた組織だからこそ、来訪者からの問い合わせ受け付けや、当日の会場運営など、どんな事柄にも幅広く対応してもらっています。

今後の陶磁器産業の発展のためには、現代の生活にマッチした商品づくりや、若い人たちがターゲットにしたPR活動も必要です。現代的なデザインを取り入れたり、レンジ対応タイプを開発したり。さらには、小中学校の給食用に茶碗や皿を利用してもらったり……。やるべきことは山積みです。

平成28年、有田焼は誕生400年を迎えます。現在、商工会議所の皆さんと記念事業を計画中。ご期待ください。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

担当者からひと言



有田商工会議所（佐賀県）
中小企業相談所
有富 和美

ここ有田では、小規模事業者の大半が陶磁器関連。この業界の浮沈が、地元経済に極めて大きな影響を与えます。

陶器市によって地元には直接経済効果が生まれますし、最終顧客と接し、市場ニーズを把握することも可能。多くの人々に有田そのものを体感してもらう絶好の機会でもあるので、今後有効活用していきたいと思っっています。

6年後の有田焼誕生400年祭の開催にあたり、昨年末にロゴマークをつくりました。これからは、歴史の検証だけでなく、市場調査による現状把握、さらには各方面へのヒアリングを通じて、陶磁器業界の今後の方向性を考えていく予定です。